

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

私は札幌生まれの札幌育ち、大学時代の4年間を室蘭で過ごした以外、ずっと札幌で暮らしている38才です。新卒で現在の会社に就職して以来、主に道路を対象とした地質調査・軟弱地盤解析、斜面防災の調査設計に携わっております。技術士試験には6度目の挑戦でやっと合格までたどり着いたベテラン(?)受検生の新米技術士です。

私には小学校3年生の娘がいます。学校では最近「プロフ(プロフィール)」というモノが流行っており、「マイブームは?」など様々な質問欄に記入して友達と交換するそうです。その中に「10年後の自分はどうなっている?」という項目があり、我が娘は自信満々に「キラキラ輝いている!」と書いています。

さて、お父さんの10年後はどうでしょう? 現在、社会人15年目になりますが、いくら業務経験を積み重ねても全く同じ業務に巡り会うことは少なく、いつも悪戦苦闘しています。それでも、1年に1歩ずつくらいは成長しているのでしょうか? と言うことは10年後にはきっと10歩分成長しているはずです。

しかし、10年後には社会環境が変化して、自分たちに求められる技術的内容も現在とは大きく異なっているかもしれません。これまでの10年間は、目の前の業務にただがむしゃらに向き合ってきましたが、これからは、時代の変化を注視しながら賢く成長することが10年後にキラキラ輝く術だろうか? と思いつつ、深夜残業後でも帰宅すると出迎えてくれる猫2匹と戯れることがお父さんのマイブームです。

柴田 純 (しばた じゅん)

● 応用理学部門(地質)
建設部門(土質及び基礎)

勤務先

株式会社 シビテック
e-mail : j.shibata@civitec.co.jp



→ 次号は、青木 淳さん(応用理学部門・建設部門)

私は昭和63年に現在の会社に入社以来、旭川、札幌、現在は北見本社に転勤となり4年目となります。技術士取得は平成22年です。

ところで皆さんは、「濃屋」この地名を読めますでしょうか。答えは「ごきびる」です。現在は石狩市厚田区濃屋ですが、私が5歳までは、国道も開通していない陸の孤島状態でした。隣の本村に行く

には、山道を徒歩で行くか、船で行くしか方法がありませんでした。山道では、何人もの方が亡くなったという話をよく祖母に聞かされました。国道が開通した時は、行きたくても行けなかった保育所に通えることができるようになり、子供心に大変うれしかった記憶があります。先日、数年ぶりに帰郷した際、落石の危険があった海岸線の道路はほとんどが長大トンネルなり、集落の入口もトンネル延伸により変わっており、ちょっとびっくりしました。以前は、海岸線の道路から沈む夕日がとてもきれいなポイントただけに「もうあの景色はもう見れないんだ」と残念に思いつつ、道路の技術者として「利用者の安心・安全のためには仕方ないのかな。自分が計画してもトンネル化を選択したんだろうな」などと考えながら車を走らせていました。

北海道には、まだ危険な道路や整備が必要な道路がたくさんあります。公共事業の面では依然として厳しい環境ですが、今後とも道路技術者として資質向上を目指し、業務に励んでいこうと思います。

坂口 彰則 (さかぐち あきのり)

● 建設部門(道路)

勤務先

株式会社 ドボク管理
e-mail : sakaguchi@dobokukanri.co.jp



→ 次号は、笠井 毅さん(建設部門)